

3

海ごみって何だろう？ どこからやってくるの？



漂流ごみ

海面や海中を漂うごみ。海鳥や魚が食べたり、大きいごみは船舶に衝突して事故を起こしたりすることがあります。

漂着ごみ

主に河川から流入したごみが、潮流や風で海岸にたどりつきます。ふたたび海に流れ出すと広い範囲に広がり、漂流ごみや海底ごみになります。

海底ごみ

海底に沈んでしまったごみ。人目につきませんが、海の環境を悪化させます。



海ごみには、私たちの普段の生活で出たペットボトルやお菓子の袋などのプラスチックごみ、ビンや缶などが多く含まれます。海ごみの7~8割は、陸からのごみとも言われています。海ごみの量は、瀬戸内海全体では年間約4,500トン(2トントラック2,250台分)にもなります。

出典:「瀬戸内海における海洋ごみの収支」沿岸域学会誌Vol.22(4), pp.17-29(2010)、環境省調査(2007)



4

海の生き物がピンチ！ 「プラスチックごみ」の影響



愛媛県の海岸線は総延長約1,700km、島の数は270以上ありますが、そのほぼ全ての海岸に漂着ごみが確認されています。さらに瀬戸内海の海底ごみは約13,000トンも存在していると推計されています。

瀬戸内海は本州と四国・九州に囲まれており、海水が循環されにくいことから、瀬戸内海の海ごみは私たちが出したごみといえます。そのうち約8割がプラスチックごみで海の生き物に深刻な影響を与えています。

ウミガメやクジラの体の中からは、ビニール袋やペットボトルなどたくさんのプラスチックごみが見つかっています。また、小さくなったプラスチックごみはマイクロプラスチックとして生き物の体に蓄積し、影響を与えています。



※環境省中国四国地方環境事務所調査



人工的に作られたプラスチックは自然に分解されることなく海に留まり続けます。そして小さく粉々になった5mm以下の物をマイクロプラスチックとよびます。

海の生き物が安心して暮らせなくなってしまう

